自衛隊の現職とOBを繋ぐ広報誌　発行：公益社団法人　広島県隊友会

年寄りを疎んじるな「いつか行く道」じゃけん！

友

若者を憂うな！「いつか来た道」じゃろう！

我が町シリーズ　“住んで　みんさい 音戸・倉橋”

音戸町・倉橋町は、平成17年呉市と合併して、呉市観光・旅の魅力がキュッと詰まったエリアとなっています。音戸は、沈む夕日を扇で招き返し切り拓いた平清盛伝説が残る港町。倉橋は、美しい砂浜と造船の浪漫ただよう、万葉さながらの景勝地です。この島内で、呉隊友会音戸分会員（約20名）は、地域にとけこみ各方面で役職等につき活躍しています。

2019年　夏（第18号）

コラム

「自衛隊の法的整備と憲法への明記を」

広島県自衛隊家族会 事務局長 山﨑 修治

広島県自衛隊家族会事務局長の山﨑修治と申します。広島県隊友会の皆様には平素から家族会へのご支援ご協力に厚く御礼申し上げます。さらに今回は、広報紙への投稿の機会を頂き重ねて御礼申し上げます。自衛隊の皆様に対しましても国・国民を守る仕事に就かれています事に敬意を表します。

久しぶりに映画を見に行きました。『空母いぶき』は、原作の尖閣列島や中国こそは出てきませんでしたが、侵略を受けた日本の危機に国・自衛隊がいかに対応すべきか考えさせられる作品でした。映画では侵略軍に対処した自衛隊員5名が亡くなりました。

フィクションとはいえ、この隊員は、日本の法律ではどのような立位置になるのか、疑問を持ちました。

戦前の法律では、名誉の戦死として、残された遺族に対しては遺族年金、軍人恩給等。怪我をした場合は、傷痍軍人としての制度があったと聞いていますが、自衛隊員戦死は今の憲法では殉職として、扱われるようです。映画で亡くなった隊員の中には奥さんと小さい子供さんが残されていました。自衛隊員は服務の宣誓により、『事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂務め、もって国民の負託にこたえる』と誓っていますが、隊員の命の代償等についての、法的根拠がないのも現実だと思います。

島原市普賢岳爆発災害活動の自衛隊に対し、高田長崎県知事が『地球より重い命よりも、もっと重い使命感があったということをまざまざと見て、熱いものがこみあげて参りました。』との言葉にあるように、阪神淡路・サリン・イラク・東北大震災・南スーダン等国内外で必死の活動を自衛隊は続けています。

昭和32年吉田茂総理大臣が自衛隊幹部になる防大卒業生に対し、『日陰ものであるときのほうが国民や日本は幸せなのだ、どうか耐えてもらいたい』と訓示をされたが、それから60年以上も日陰者であった自衛隊は、現在90％以上の国民の信頼をもらっています。

それでもまだ自衛隊を違憲と言う法学者もいます。そろそろ日の当たる所に出してもらっても良いのではないかと思います。

毎年、防衛大臣、統合幕僚長、陸・海・空幕僚長に中国・四国自衛隊協力団体は、要望書を提出しています。第1に憲法における自衛隊の位置づけの明確化（自衛権の明記、国防軍の設置、軍事裁判所の設置）。第2に人員・予算の確保。第3に処遇待遇の改善。第4に地方自治体の危機管理に対する積極的関与です。

私は二人の息子が自衛官ですが、隊員は全て私の子供だと思っています。政治活動の出来ない子供達のためにも、自衛隊の法整備の確立と、少なくとも自衛隊の憲法明記を、隊友会を始め協力団体の方と共に実現させたいと思います。